千葉都市モノレール2号線

スポーツセンター駅

【現　況】

スポーツセンター駅は、1日平均乗車人員は約2,500人、自転車等の乗入台数は253台である。
駐輪場は2箇所設置しており、収容台数は557台となっている。

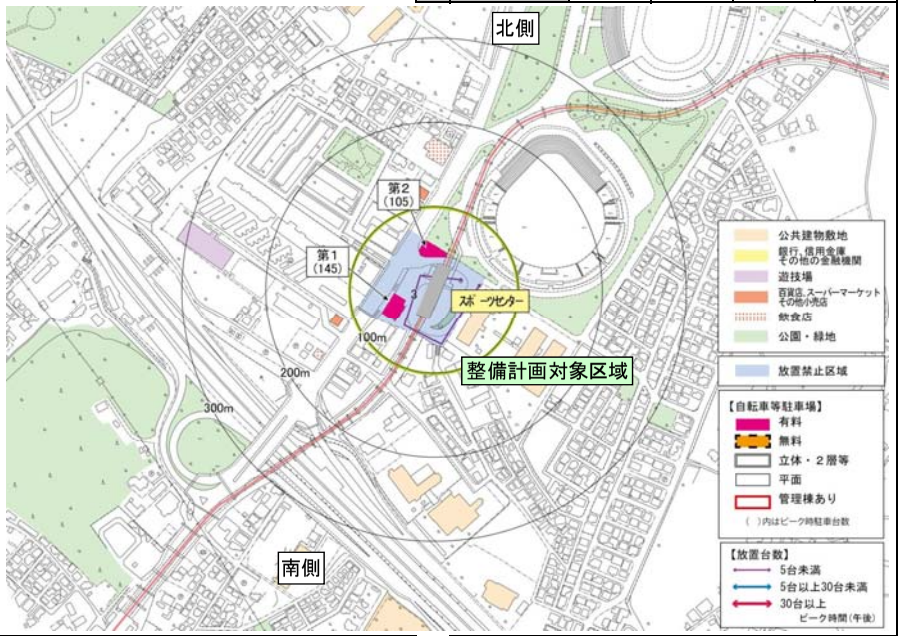
【整備計画】

北側及び南側では、推計台数が収容台数を下回ることから、駐輪場の整備は行わない。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	253	250	3	557
自転車	247	244	3	527
原付	6	6	0	30



北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	106	105	1	177
自転車	106	105	1	177
原付	0	0	0	0

南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	147	145	2	380
自転車	141	139	2	350
原付	6	6	0	30

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	2,450 人／日

(H26千葉市統計書)

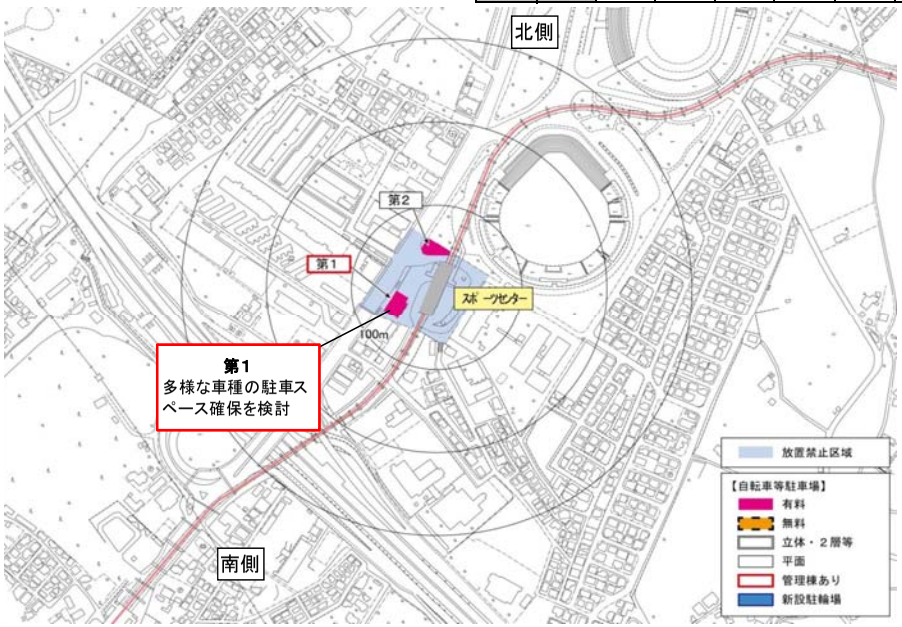
【需要推計】

スポーツセンター駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数を267台と推計しており、現在、収容台数は557台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	北側	自転車	原付	南側	自転車	原付
		1.05	1.17		0.99	0.99		1.10	1.10

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	253	—	267	0	267	557	-
自転車	247	1.05	260	0	260	527	-
原付	6	1.17	7	0	7	30	-



北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	106	—	105	0	105	177	—
自転車	106	0.99	105	0	105	177	—
原付	0	0.99	0	0	0	0	—

南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	147	—	162	0	162	380	-
自転車	141	1.10	155	0	155	350	-
原付	6	1.10	7	0	7	30	-

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
北側	第2		177 (0)		177 (0)	0 (0)	0 (0)	—	市	市	市
計			177 (0)	0 (0)	177 (0)	0 (0)	0 (0)				
南側	第1		380 (30)		380 (30)	100 (10)	100 (10)	—	市	市	市
計			380 (30)	0 (0)	380 (30)	100 (10)	100 (10)				
駅計			557 (30)	0 (0)	557 (30)	100 (10)	100 (10)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

動物公園駅

【現　況】

動物公園駅は、1日平均乗車人員は約700人、自転車等の乗入台数は61台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は89台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

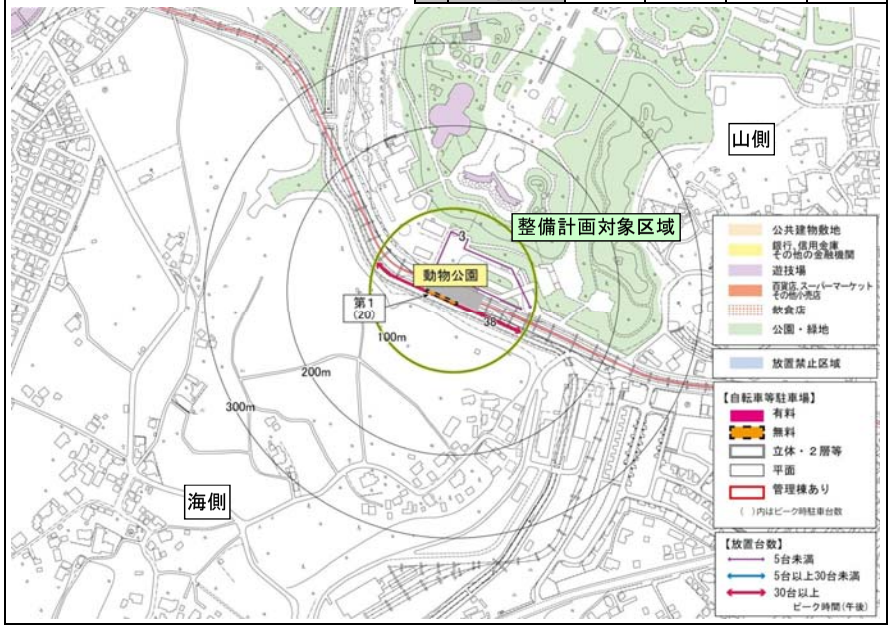
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
駅全体では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小を検討する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化の際には、ラック、転倒防止柵、利用案内看板などの駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

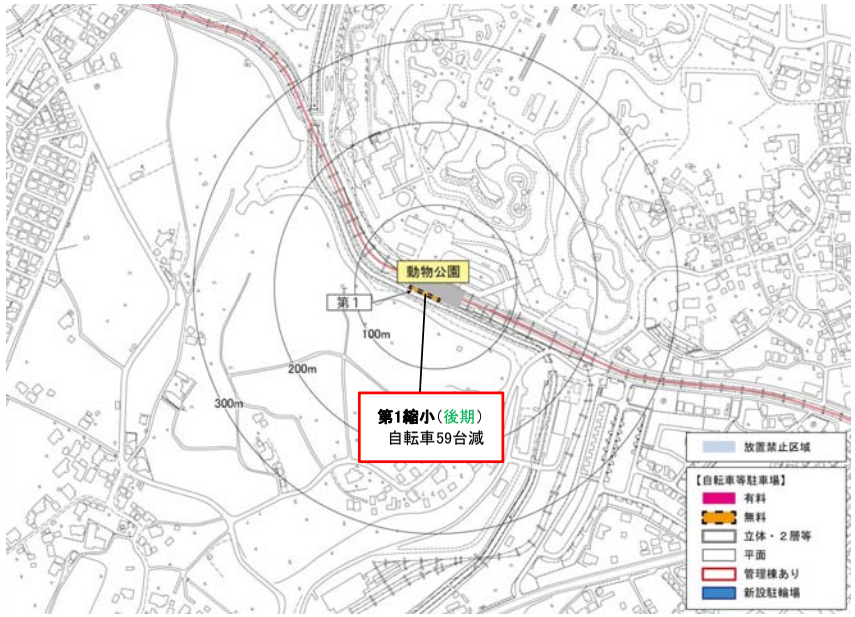
測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	61	20	41	89
自転車	58	18	40	89
原付	3	2	1	0



整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	61	—	61	—	32	89	-
自転車	58	1.00	58	0.51	30	89	-
原付	3	1.00	3	0.51	2	0	2



◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	664 人／日

(H26千葉市統計書)

【需要推計】

動物公園駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数は61台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計において有料化による影響を考慮し、乗入台数を32台と推計する。現在、収容台数は89台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付
		1.00	1.00

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数			内　一時利用		整備時期	主体		
			現況(内原付)	整備(内原付)	計(内原付)	現況(内原付)	計画(内原付)		用地	整備	運営
	第1	縮小	89　(0)	-59　(0)	30　(0)	0　(0)	0　(0)	後期	市	市	市
	計		89　(0)	-59　(0)	30　(0)	0　(0)	0　(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

みつわ台駅

【現　況】

みつわ台駅は、1日平均乗車人員は約1,700人、自転車等の乗入台数は226台である。
駐輪場は北側に1箇所設置しており、収容台数は500台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

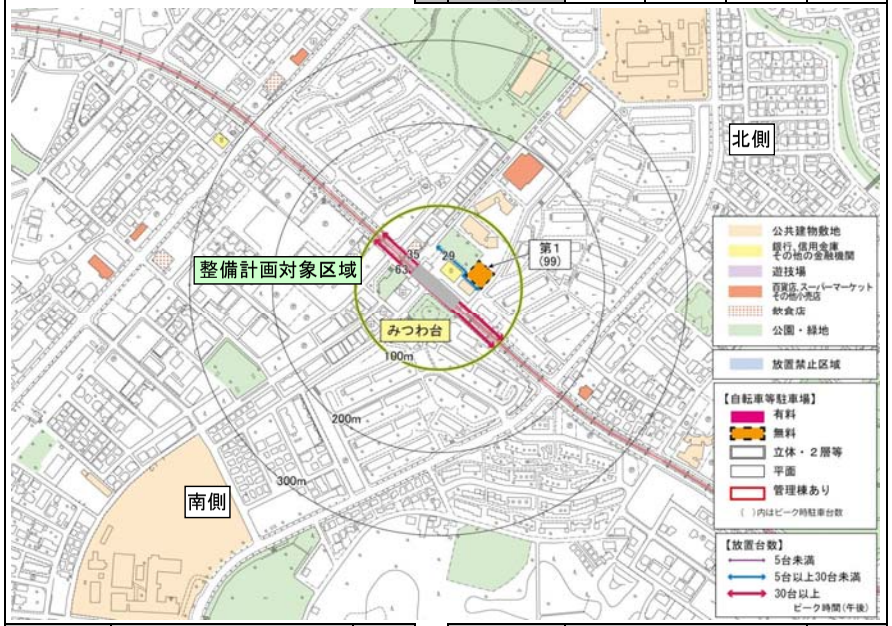
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
南側では、推計台数が収容台数を上回ることから、幅広の歩道を活用した第2駐輪場の整備を検討する。
北側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小、幅広の歩道を活用した第2駐輪場の整備を検討する。第2駐輪場は、路上の駐輪場整備となることから、原付は第1駐輪場で受け入れるものとする。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	226	99	127	500
自転車	207	84	123	480
原付	19	15	4	20



南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	63	0	63	0
自転車	61	0	61	0
原付	2	0	2	0

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	163	99	64	500
自転車	146	84	62	480
原付	17	15	2	20

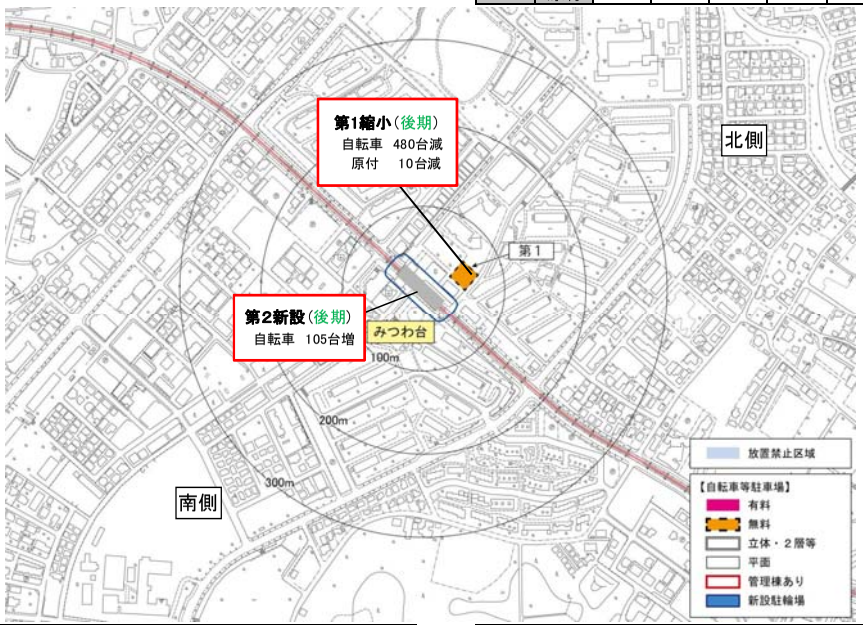
◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,711 人／日

（H26千葉市統計書）

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	226	—	226	—	115	500	-
自転車	207	1.00	207	0.51	105	480	-
原付	19	1.00	19	0.51	10	20	-



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	63	—	63	—	32	0	32
自転車	61	1.00	61	0.51	31	0	31
原付	2	1.00	2	0.51	1	0	1

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	163	—	163	—	83	500	-
自転車	146	1.00	146	0.51	74	480	-
原付	17	1.00	17	0.51	9	20	-

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第2	新設　路上P		31　(0)	31　(0)		0　(0)	後期	市	市	市
	計		0　(0)	31　(0)	31　(0)	0　(0)	0　(0)				
北側	第1	縮小	500　(20)	-490　(-10)	10　(10)	0　(0)	0　(0)	後期	市	市	市
	第2	新設　路上P		74　(0)	74　(0)		0　(0)	後期	市	市	市
計			500　(20)	-416　(-10)	84　(10)	0　(0)	0　(0)				
駅計			500　(20)	-385　(-10)	115　(10)	0　(0)	0　(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

【需要推計】

みつわ台駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数は226台を見込んでいる。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を115台と推計する。現在、収容台数は500台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体			南側			北側		
	自転車	原付		自転車	原付		自転車	原付	
	1.00	1.00		1.00	1.00		1.00	1.00	

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

千葉都市モノレール2号線

桜木駅

【現　況】

桜木駅は、1日平均乗車人員は約1,600人、自転車等の乗入台数は344台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は300台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

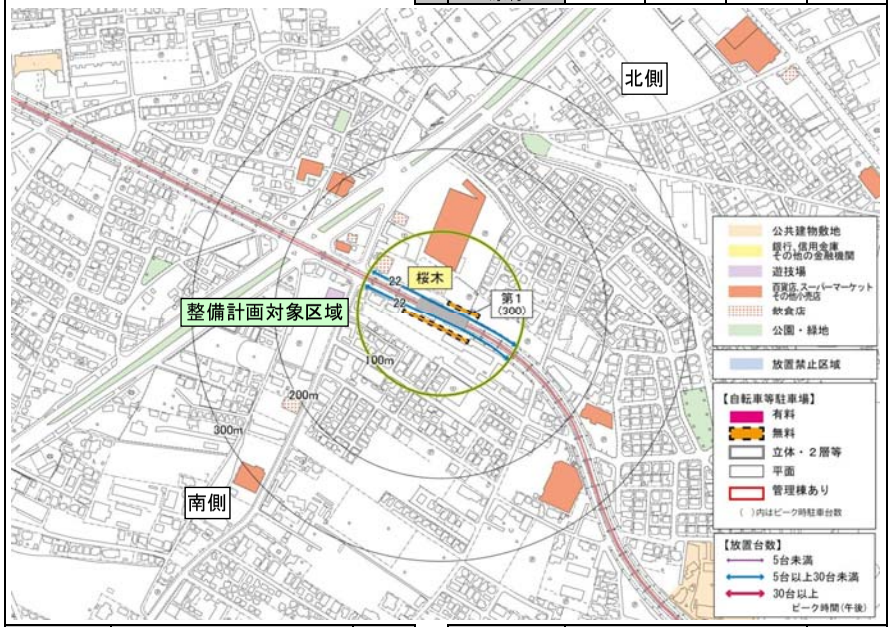
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
南側及び北側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小を検討する。第1駐輪場は路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	344	300	44	300
自転車	342	298	44	300
原付	2	2	0	0



南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	172	150	22	150
自転車	171	149	22	150
原付	1	1	0	0

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	172	150	22	150
自転車	171	149	22	150
原付	1	1	0	0

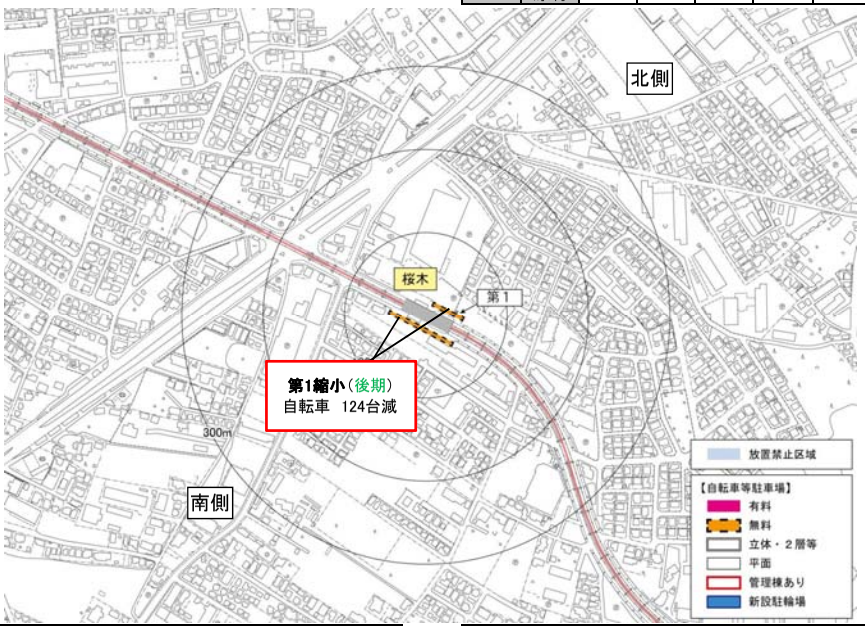
◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,572 人／日

(H26千葉市統計書)

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	344	—	348	—	178	300	-
自転車	342	1.01	346	0.51	176	300	-
原付	2	1.00	2	0.51	2	0	2



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	172	—	174	—	89	150	—
自転車	171	1.01	173	0.51	88	150	—
原付	1	1.01	1	0.51	1	0	1

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	172	—	174	—	89	150	-
自転車	171	1.01	173	0.51	88	150	-
原付	1	1.01	1	0.51	1	0	1

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第1	縮小	150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)				
北側	第1	縮小	150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			150 (0)	-62 (0)	88 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			300 (0)	-124 (0)	176 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

【需要推計】

桜木駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数は348台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を178台と推計する。現在、収容台数は300台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	南側	自転車	原付	北側	自転車	原付
		1.01	1.00		1.01	1.01		1.01	1.01

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

千葉都市モノレール2号線

小倉台駅

【現　況】

小倉台駅は、1日平均乗車人員は約1,400人、自転車等の乗入台数は387台である。
駐輪場は南側に1箇所、北側に2箇所設置しており、収容台数は470台となっている。
なお、駐輪場は無料駐輪場となっている。

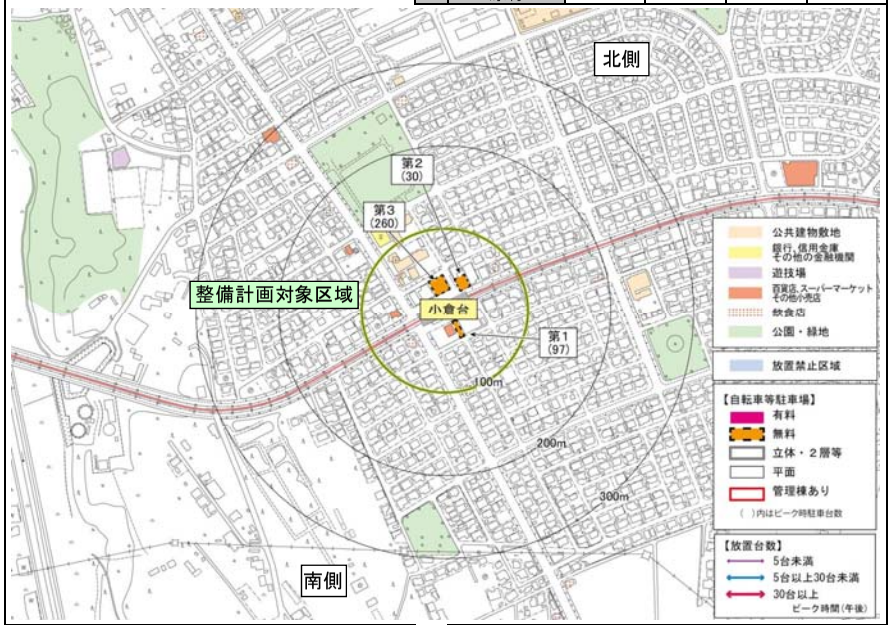
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
南側では、推計台数が収容台数を下回ることから、駐輪場の整備は行わないものとする。
北側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第2駐輪場の廃止、第3駐輪場の縮小を検討する。原付は第1駐輪場へ誘導し対応する。
なお、有料化に伴い、ラック、転倒防止柵、利用案内看板などの駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	387	387	0	470
自転車	383	383	0	458
原付	4	4	0	12

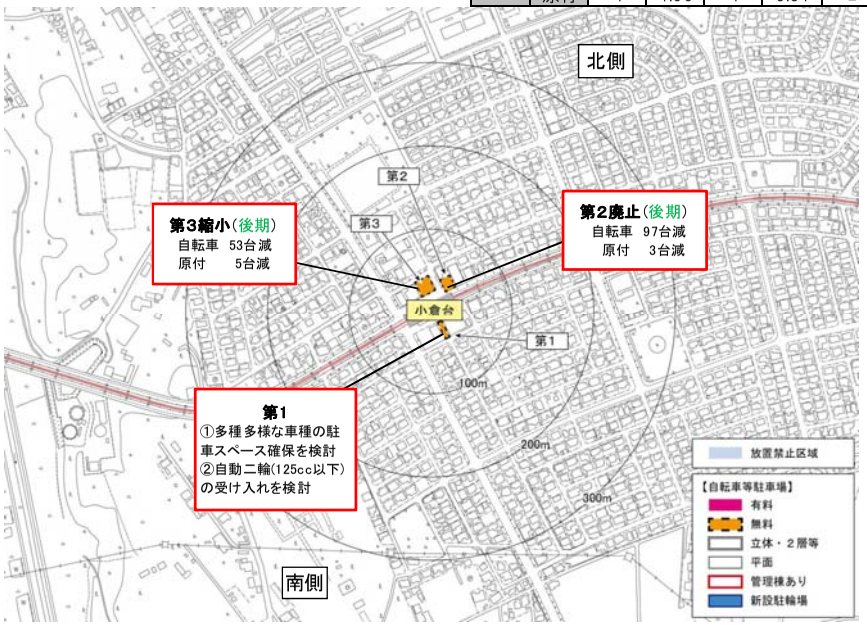


南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	165	165	0	200
自転車	163	163	0	196
原付	2	2	0	4

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	222	222	0	270
自転車	220	220	0	262
原付	2	2	0	8

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	387	—	389	—	198	470	-
自転車	383	1.01	385	0.51	196	458	-
原付	4	1.00	4	0.51	2	12	-



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	165	—	167	—	85	200	—
自転車	163	1.01	165	0.51	84	196	—
原付	2	1.01	2	0.51	1	4	—

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	222	—	222	—	113	270	-
自転車	220	1.00	220	0.51	112	262	-
原付	2	1.00	2	0.51	1	8	-

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	1,404 人／日

(H26千葉市統計書)

【需要推計】

小倉台駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数を389台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計においては有料化による影響を考慮し、乗入台数を198台と推計する。現在、収容台数は470台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体			南側			北側		
	自転車	原付		自転車	原付		自転車	原付	
	1.01	1.00		1.01	1.01		1.00	1.00	

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数			内　一時利用		整備時期	主体		
			現況(内原付)	整備(内原付)	計(内原付)	現況(内原付)	計画(内原付)		用地	整備	運営
南側	第1		200　(4)		200　(4)	0　(0)	0　(0)	—	市	市	市
	計		200　(4)	0　(0)	200　(4)	0　(0)	0　(0)				
北側	第2	廃止	100　(3)	-100　(-3)	0　(0)	0　(0)	0　(0)	後期	市	市	市
	第3	縮小	170　(5)	-58　(-5)	112　(0)	0　(0)	0　(0)	後期	市	市	市
計			270　(8)	-158　(-8)	112　(0)	0　(0)	0　(0)				
駅計			470　(12)	-158　(-8)	312　(4)	0　(0)	0　(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

千葉都市モノレール2号線

千城台北駅

【現　況】

千城台北駅は、1日平均乗車人員は約900人、自転車等の乗入台数は254台である。
駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は250台となっている。
なお、駐輪場は無料となっている。

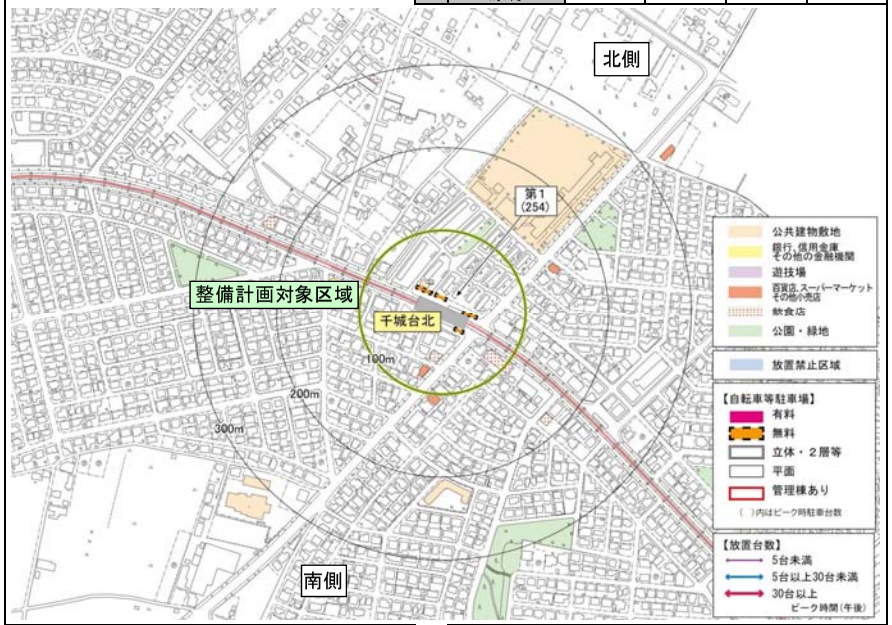
【整備計画】

受益者負担の原則に基づき、有料化を検討する。また、有料化の時期に合わせて放置禁止区域を指定する。
駅全体では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小を検討する。第1駐輪場の縮小にあたっては、路上駐輪場であることから、原付の受入れは行わない。
なお、有料化の際には、ラック、転倒防止柵、利用案内看板等の駐輪設備の整備が必要である。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	254	254	0	250
自転車	253	253	0	250
原付	1	1	0	0

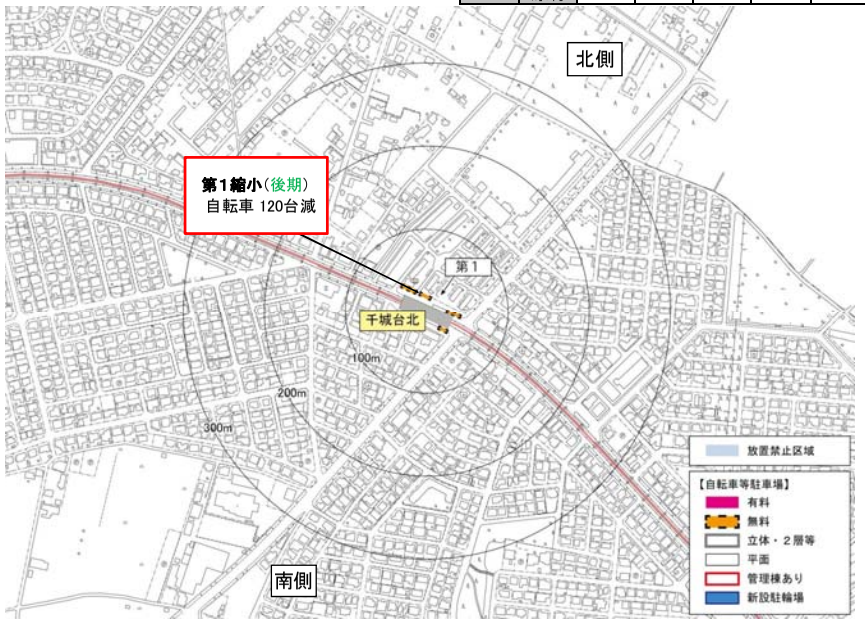


南側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	50	50	0	50
自転車	50	50	0	50
原付	0	0	0	0

北側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	204	204	0	200
自転車	203	203	0	200
原付	1	1	0	0

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	254	—	255	—	131	250	-
自転車	253	1.00	254	0.51	130	250	-
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1



南側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	有料化補正	推計台数	収容台数	不足台数
計	50	—	51	—	26	50	—
自転車	50	1.01	51	0.51	26	50	—
原付	0	1.01	0	0.51	0	0	—

北側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	204	—	204	—	105	200	-
自転車	203	1.00	203	0.51	104	200	-
原付	1	1.00	1	0.51	1	0	1

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	932 人／日

（H26千葉市統計書）

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数 現況(内原付)	台数 整備(内原付)	台数 計(内原付)	内 一時利用 現況(内原付)	内 一時利用 計画(内原付)	整備時期	主体 用地	主体 整備	主体 運営
南側	第1	縮小	50 (0)	-24 (0)	26 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
	計		50 (0)	-24 (0)	26 (0)	0 (0)	0 (0)				
北側	第1	縮小	200 (0)	-96 (0)	104 (0)	0 (0)	0 (0)	後期	市	市	市
計			200 (0)	-96 (0)	104 (0)	0 (0)	0 (0)				
駅計			250 (0)	-120 (0)	130 (0)	0 (0)	0 (0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33

【需要推計】

千城台北駅周辺では、計画目標年次（平成33年）の乗入台数は255台と推計している。また、無料駐輪場を有料化した場合、乗入台数に減少が見込まれることから、需要推計において有料化による影響を考慮し、乗入台数を131台と推計する。現在、収容台数は250台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体			南側			北側		
	自転車	原付		自転車	原付		自転車	原付	
	1.00	1.00		1.01	1.01		1.00	1.00	

無料駐輪場の有料化による乗入台数低下の割合	自転車	原付
	51%	51%

千葉都市モノレール2号線

千城台駅

【現　況】

千城台駅は、千葉都市モノレール2号線の最終駅である。1日平均乗車人員は約4,200人となっており、JR線との連絡駅である千葉駅、都賀駅、千葉みなと駅を除くと最も多い駅となっており、自転車等の乗入台数は385台である。駐輪場は1箇所設置しており、収容台数は1,400台となっている。

【整備計画】

千葉側では、推計台数が収容台数を下回ることから、第1駐輪場の縮小を検討する。
千城台側では、駐輪場がなく、収容台数が不足することから、第2駐輪場の新設を検討する。なお、第2駐輪場に電磁ロック式ラックを導入するとともに第1駐輪場の管理棟の廃止を検討する。

駐車台数・放置台数

測定日：平成27年6月2日
図はピーク時の台数を示している。

全体	ピーク時乗入台数			収容台数
		駐車	放置	
計	385	301	84	1,400
自転車	374	290	84	1,250
原付	11	11	0	150

千葉側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	343	301	42	1,400
自転車	332	290	42	1,250
原付	11	11	0	150

千城台側	乗入台数	駐車	放置	収容台数
計	42	0	42	0
自転車	42	0	42	0
原付	0	0	0	0

◆参考データ

駅利用状況	1日平均乗車人員(H25)
	4,218 人／日

(H26千葉市統計書)

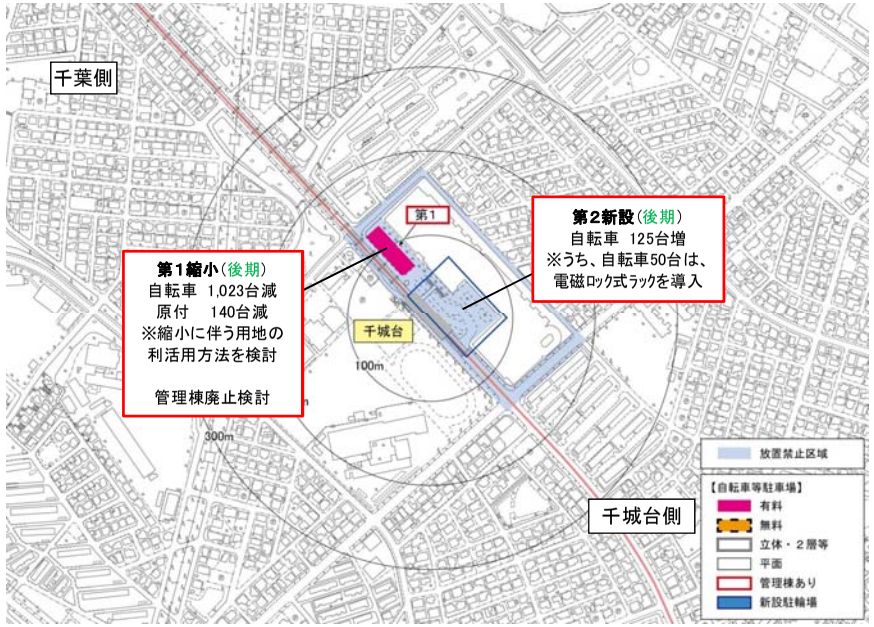
【需要推計】

千城台駅周辺では、計画目標年次(平成33年)の乗入台数を362台と推計しており、現在の収容台数は1,400台を確保していることから充足している。

計画期間(H33)の伸び率	全体	自転車	原付	千葉側	自転車	原付	千城台側	自転車	原付
		0.94	0.91		0.94	0.94		0.96	0.96

整備計画図

全体	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	385	—	362	0	362	1,400	-
自転車	374	0.94	352	0	352	1,250	-
原付	11	0.91	10	0	10	150	-



千葉側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	343	—	322	0	322	1,400	—
自転車	332	0.94	312	0	312	1,250	—
原付	11	0.94	10	0	10	150	—

千城台側	乗入台数	伸び率	伸び後の台数	新規需要台数	推計台数	収容台数	不足台数
計	42	—	40	0	40	0	40
自転車	42	0.96	40	0	40	0	40
原付	0	0.96	0	0	0	0	-

◆整備内容

駅口	駐輪場	整備手法	台数			内　一時利用		整備時期	主体		
			現況(内原付)	整備(内原付)	計(内原付)	現況(内原付)	計画(内原付)		用地	整備	運営
千葉側	第1	縮小、管理棟廃止検討	1,400　(150)	-1,163 (-140)	237　(10)	100　(10)	0　(0)	後期	市	市	市
計			1,400　(150)	-1,163 (-140)	237　(10)	100　(10)	0　(0)				
千城台側	第2	新設、電磁ロック式ラック		125　(0)	125　(0)		50　(0)	後期	市	市	市
計			0　(0)	125　(0)	125　(0)	0　(0)	50　(0)				
駅計			1,400　(150)	-1,038 (-140)	362　(10)	100　(10)	50　(0)				

※主体欄　市：千葉市、JR：JR東日本　京成：京成電鉄　モノ：千葉都市モノレール　民：個人または民間事業者
※整備時期欄　前期：H28～30　後期：H31～33